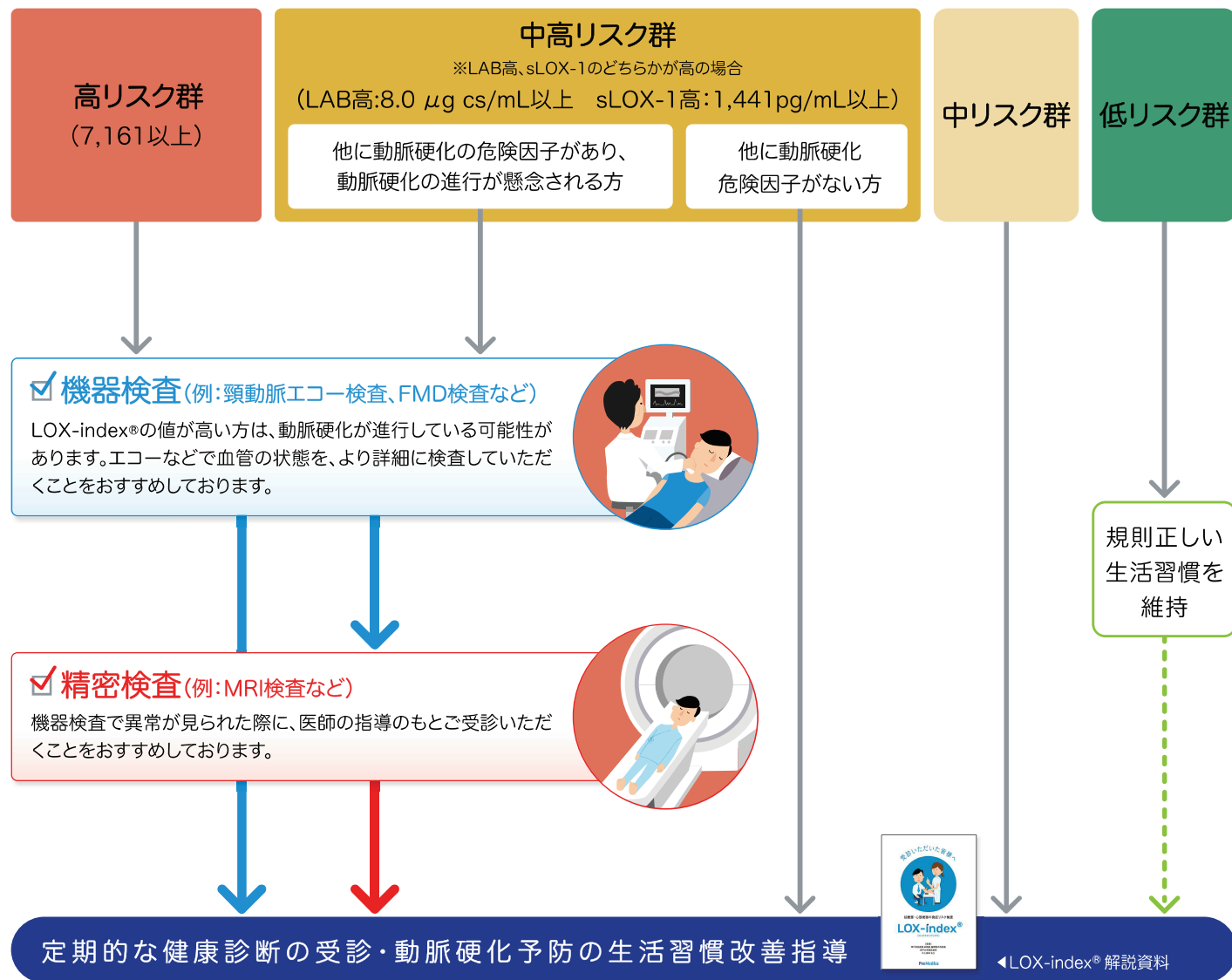


検査後の対応

脳梗塞・心筋梗塞の予防のためには、生活習慣の改善や予防への対策に取り組むことをおすすめします。

下記フローチャートは参考事例です。いかなる結果であっても、機器検査・精密検査を受診する必要があることを述べるものではありません。他の検査結果や生活習慣の中で気になったことがあれば、必要に応じて医師にご相談ください。



代表的な機器検査

頸動脈エコー検査

超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。

FMD検査

動脈硬化の前段階で起こる内皮障害の度合いを測定し、早期の動脈硬化を調べる検査です。

CAVI検査、ABI/PWV検査

動脈の硬さ、つまりを検査します。
手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べる検査です。

代表的な精密検査

MRI/MRA検査

電磁波を使用し、脳・心臓の断層像、血管の状態を映像化する検査です。

心臓核医学検査

放射線量をコンピューター処理して画像化し、心臓の血液の流れを映し出す検査です。

心臓CT検査(コンピューター断層撮影)

X線とコンピューターを使い、心臓の状態を調べる検査です。

心臓カテーテル検査

体内にカテーテルを通し、造影剤を入れてX線撮影を行い、血管の状態を調べる検査です。

※ LOX-index® 検査は医師の診断を代替するものではありません。LOX-index® 検査の結果に基づき機器検査、精密検査等を受ける場合の費用は、保険診療適用外です。

※ 脳梗塞・心筋梗塞の発症や動脈硬化の進行は、その他の健康診断の検査結果や精密検査の結果をもとに総合的に判断されるものです。

〔検査受託〕 株式会社プリメディカ

〔測定・解析〕 株式会社プリメディカ

検査責任者: 坂爪 洋

医療機関名: PMCクリニック

受検日: 2023/4/1

受検者名: サンプル タロウ

カルテID: 123456789

備考①: 株式会社プリメディカ

備考②:



5ff8246e76ef8

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

LOX-index®

ロックス・インデックス

LOX-index®は、日本人約2,500名を平均11年間追跡した疫学研究に基づき、あなたの検査結果と類似した検査母集団(群)における、統計的な脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを指標化したものです。

※ 本検査は疾患の診断や将来の疾患発症を確定するものではありません。

※ 基礎疾患やその他遺伝的要因等によっても脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクは変動いたします。

管理会社ユニークコード: yyyymmddXXXXXXX

営業所番号: XXXXX

施設管理コード: XXXXX.XX

PreMedica

氏名

サンプル タロウ 様

性別

男性

年齢

47歳

受検日

2023/4/1

カルテID

123456789

検査結果

LOX-index®

今回の測定結果

736

あなたの結果値と同等の方は

低リスク群

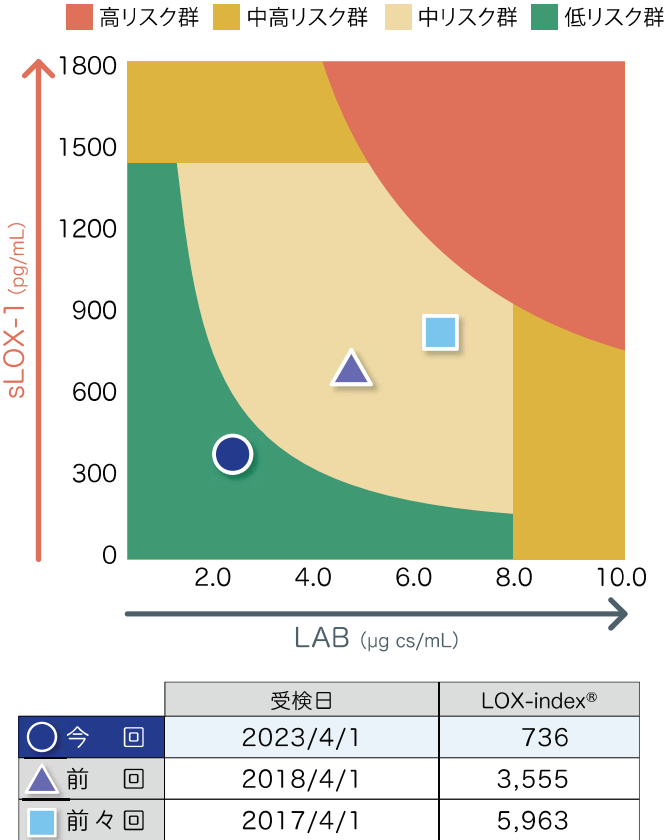
に分類されます。

👉

(各)リスクの分類について

本検査では日本人約2,500名を対象とした約11年間の疫学研究(吹田スタディ)をベースに、特定の統計的手法(パラメトリック法)を用い4段階のリスク群を設定しています。

※「低リスク」群であっても疾患の発症可能性が否定されるものではありません。



日本人約2,500名を対象とした約11年間の疫学研究から、「低リスク」群の方は統計的に「中リスク」群以上の母集団に比べて脳梗塞及び心筋梗塞の発症率が低かったことが報告されています。

(脳梗塞発症率:中リスク以上の母集団の約3分の1、心筋梗塞発症率:最高四分位に比べて約2分の1)

また、LOX-index®の値が高くなると心筋梗塞の発症率が高くなることが報告されており、「高リスク」群は母集団全体の内、LOX-index®の測定値の上位2.5%、「中高リスク」群はLABあるいはsLOX-1測定値の上位2.5%が属する群です。

動脈硬化が原因となる脳梗塞や心筋梗塞は、自覚症状がほとんど無いまま進行し、発症に至ります。脳梗塞・心筋梗塞は生活習慣の改善などで予防することができる可能性の高い疾患です。

日頃からバランスの良い食事や運動を中心とし、今まで以上に健康的な生活習慣を心がけましょう。

今後もLOX-index®検査を定期的にご受検いただくことをおすすめします。

個別測定項目

sLOX-1

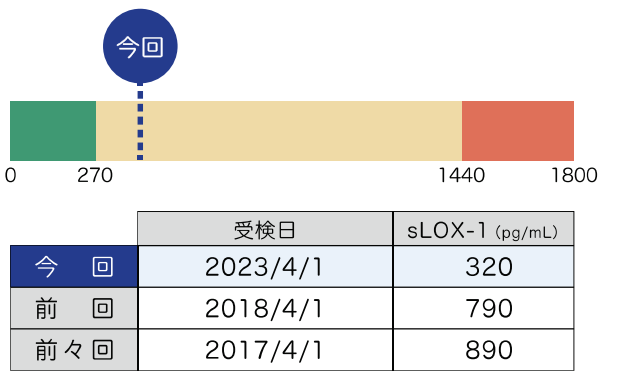
今回の検査結果

320

pg/mL

sLOX-1の値は前回と比べて減少しております。

動脈硬化は、特に加齢に伴って進行しやすくなります。また、高血圧や塩分摂取の増加、ストレスなどによりsLOX-1は高くなります。食生活の改善やストレスの解消などにより、健康的な生活習慣を心がけましょう。



エスロックスワン

sLOX-1とは

LOX-1は血液中から異物を取り除く働きをしています。本検査で実際に測定しているsLOX-1はLOX-1が血中に溶け出した状態のもので、炎症で上昇することが知られています。血管に障害が起こるとsLOX-1の生成が促進されるため、sLOX-1は血管炎症の指標として利用されています。

LAB

今回の検査結果

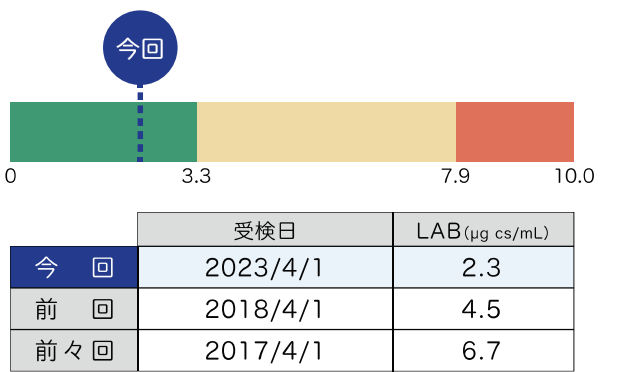
2.3

μg cs/mL

LABの値が前回と比べて減少しております。

動脈硬化は、特に加齢に伴って進行しやすくなります。

LABの値を維持できるよう、今後も健康的な生活習慣を心がけましょう。



エルイービー

LABとは

超悪玉コレステロールLABは、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

LOX-index®の結果をアプリから見れるようになりました！

検査報告書の見方、測定項目の詳しい解説、数値を改善するためのアドバイスを公開中です。

また、検査を受けていただいた方限定の特典サービス/キャンペーンのご案内や健康改善に役立つ専門コラムも閲覧いただけます。

利用無料

あなたの健康を見える化

PreMedica

検査結果アプリ

ダウンロードはこちら

左記二次元コードもしくはAppStore または GooglePlay で

プリメディカ

検索

LOX-index®専用受検コード

アプリ上でいつでもLOX-index®の検査結果を閲覧できます。検査結果を登録し、予防に取り組みましょう！

アプリをダウンロード後、LOX-index®の結果登録時にご利用ください。

受検コード 89DMGX07NP

QRコード